

2003 年度国際政治経済論 (計 14 回)

下川 雅嗣

研究室 10 号館 4 階 444 号室(内 3576)

E-mail: [m-shimok@sophia.ac.jp](mailto:m-shimok@sophia.ac.jp)

ホームページURL: <http://pweb.cc.sophia.ac.jp/~m-shimok/>

**[ 授業の目的・内容・進め方・履修上の条件等 ]**

現代国際政治経済の諸問題を出来る限り経済学の方法論に基づいて議論する。扱うトピックスは、貿易政策の政治経済学、国際経済体制、地域経済統合、グローバリゼーション等である。その際、貧困国の視点にも触れたい。前提とはしないが経済学の基礎的な知識があることが望ましい。なお貧困問題については国際政治経済論 で集中的に扱うので続けるの受講を勧める。

**[ 評価方法 ]**

A 案：出席及びレポートで評価する（59 票）。B 案：出席及び試験で評価する（11 票）。  
（どちらでも良い：1 票、無記入：36 票）→出席及びレポートで評価に決定。

<教科書>特に定めない。

<参考書>

クルグマン・オブズフェルド著（石井・浦田・竹中他訳）『国際経済 理論と政策： 国際貿易』第 3 版、新世社。 Krugman, P. R. and Obstfeld, M. (2000), *International Economics: Theory and Policy*, Fifth Edition, Addison-Wesley Longman.

クルグマン著（山岡洋一訳）(1997)『クルグマンの悪い経済学、悪い経済学』日本経済新聞社（Krugman, P., 1996 "Pop Internationalism," MIT press）

「国と国が競争していると言うのは、危険な妄想であり、経済の基本原則が理解されていないこと、国内政策の怠りを誤魔化すために政治的に利用されているものであり、そのような意識が広がれば、国内政策を一層歪め、国際経済システムを脅かしかねない。」と政治家、官僚、マスコミ、経済評論家の中に蔓延している俗流国際経済論への批判したエッセイの集まり。

矢野誠著（2001）『ミクロ経済学の基礎』岩波書店。

矢野誠著（2001）『ミクロ経済学の応用』岩波書店

経済学を基礎からきちんとやりたい人はこの本をまず読むことをお勧め。この続編として『ミクロ経済学の応用』もあるが、この 2 冊を熟読すれば、学部レベルの経済学のすべて、及び経済学的な考え方・センスの本質はほぼ修得できる。国際経済学の授業ではこれも用いる。

木村福成（2000）『国際経済学入門』日本評論社。

国際政治経済論的視点を意識しながら、国際経済について(日本人)経済学者の視点から理論的にきちんと論じたもう一つの本。内容は、クルグマンの国際経済とほぼ同一。クルグマンの本より数式や理論の展開がより厳密に行われている。ある程度の経済学の知

識（ミクロ経済学）が前提とされている。事例はクルグマンのテキストよりは少ないがしばしば日本のデータを用いている。

**若杉隆平（1996）『国際経済学』岩波書店**

分野は や と同じ。しかし より簡単。また国際貿易体制、地域統合についても比較的まとめられている。参考文献表が充実している。

**絵所秀紀（1997）『開発の政治経済学』日本評論社。**

経済開発に主眼をおいた立場での国際政治経済学の学史を紹介（経済学を知っている）

**Stiglitz (2002), *Globalization and its Discontents* (Ch.3,4 のみで十分か), ALLEN LANE(鈴木訳：『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』徳間書店：ただし表題のつけ方及び翻訳はかなりひどい)。**

IMF, 世銀の現実の施策についての元世銀チーフエコノミスト（ノーベル経済学賞受賞者）の批判的指摘。特に現代の国際経済体制およびグローバリゼーションの問題点の指摘が行われている（しかし学術書ではなく、また書き方はくどい）。

**野村・大芝・納家・長尾著（1996）『国際政治経済学・入門』有斐閣アルマ。**

標準的な国際政治経済学のテキスト（ただし政治学からの流れ）

**スティグリッツ著（藪下・秋山他訳）（1999）『入門経済学』第2版、東洋経済新報社。**

経済学を始めての人が経済学を学ぶための の教科書に違和感を感じた場合の入門的教科書。

\*\*\*\*\*

#### [ 授業計画 ](スケジュール)

1. イントロダクション：国際政治経済学と経済学、経済・政治・文化
2. 貿易政策と政治経済学：基本的理解 3章
3. 貿易政策と政治経済学：自由貿易擁護論と反対論 10章、6章
4. レントシーキング活動 9章、10章、2章  
(以上2、3、4は本来は国際経済学での経済学的基礎が前提)
5. 国際交渉・国際貿易協定の経済学的基礎 10章
6. 国際交渉と国際経済体制 10章、11章、しかし制度及び歴史が一番詳しいのは
7. 地域経済統合 同上。
8. 地域経済統合 同上。
9. グローバリゼーション：労働移動、資本移動 7章、5章
10. グローバリゼーション：海外直接投資と多国籍企業 7章、
11. グローバリゼーション：地域経済学からの問題提起 8章(5<sup>th</sup>版にはなし)
12. グローバリゼーション：集積の経済と不均等発展 8章
13. グローバリゼーション：本質的問題とオルタナティブ